

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域住民の入居受け入れを優先し生活環境の変化が少なく安心して末長く住めることを支援する。又、住民を受け入れることにより、面会もしやすく安心して暮らす環境を整えるよう努力している。 | | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 月1回の全職員によるカンファレンスを開催し、運営者・管理者と職員は、理念を唱和している。又、業務日誌の連絡事項を日々確認したり、検討すべき課題が出た時は速やかに相談している。 | | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 運営推進会議を二か月に1回開催し市職員・区長・民生委員・家族との話し合いをしている。又、さくらのいえ祭り等ホーム内の行事を開催しながら取り組みを説明している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 毎日午前中に散歩をしており、近隣の方と挨拶を交わしている。時にはお茶をいただいたりすることもあり、ふれあいをしている。玄関を開いて遊びに来やすい環境にしている。 | ○ | 毎日の散歩は可能な限り継続していきたい。 |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 運動会・餅つき大会などの案内をいただいて参加したり、地区の敬老会に出席して積極的に地域との関係を深めている。来年度のさくらのいえ祭りでは、地域の方々の芸能発表をお願いしている。又、幼稚園との年二回の交流を行い一緒に同じ弁当を食べお互いに励みとなっている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 介護の相談があれば、いつでも相談に乗っている。今年度は運営推進会議の委員が包括支援センターの職員でもあるので相談しやすい環境である。又、災害時の避難場所として活用していただけるよう区長に提供を申し出ている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 講師を招き講習会を開催し、全職員で勉強をしている。外部評価の結果を経ての改善の話し合いや、今年度の自己評価は職員で検討し意義を確認し意識の向上も感じている。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 公平・中立の立場のボランティアにも参加していただいたり、法人の理事にも出席していただきホームの評価だけにとどまらず、福祉全般について意見交換し、参加者が勉強を楽しんでいる様子がある。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ケース相談以外にも、気軽に相談できる環境である。用事で足を運んだ際には、日頃の疑問や相談ごとなどを聞いてもらっている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 施設長や管理者は研修に参加したり公演を聞いたりして勉強する機会を設けている。また、ホーム内で研修会を開催し勉強している。 | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に努める勉強会を行い、ホーム内でも隠し事がないよう常にオープンに話し合いの場を持ち、注意を払っている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|---|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>入所前には利用者宅を訪問するだけでなく、ホームの見学をしてもらい入所についての説明をしている。契約時にも十分な時間をとり説明をし疑問点や不安なことをうかがっている。また、変更あるときはそのつど説明している。</p> | |
| 13 | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>担当職員による細部への気配りにより、通り一片の認識で終わらないように話しやすい環境を作り、カンファレンスでも職員間で意見交換している。</p> | |
| 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>月1度の便りを送付して近況を報告している。家族の面会時には、体調の変化や生活の様子・金銭管理の報告・新任の職員を紹介等している。</p> | |
| 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>面会時には話しやすい環境を設け、注意点があった時は電話や訪問をし改善・解決に努めている。また、退所した家族にも遊びに来ていただき、良い点・悪い点を改めて教えていただいている。</p> | |
| 16 | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>月1度の職員会議では全員で理念を唱和し、運営者より運営方針について話がある。話し合いを通しての意見や提案を大事にし職員の健康状態を含め理解に努めている。</p> | |
| 17 | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>運営者や管理者は話し合いをし、行事や必要な時間帯には職員の補充をして柔軟な対応ができるよう調整を行っている。</p> | |
| 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>昨年の職員の離職を乗り越え、職員間でもスムーズに意見交換し疑問に思うことは積極的に話し合いをし理解に努めている。やむを得ず離職があった場合は、利用者の精神状態の変化の影響を最小限にとめられるよう配慮している。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|--|--|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>外部の勉強会や講演等には積極的に参加し、内部でも講師を招いたり研修会を開いている。又次なる資格等の取得を目標としていくよう勧めている。今年度も認知症実践者研修の受講の予定もあるが、非常勤の職員も盛岡の研修会に参加し偏りのないよう計画してきた。</p> | <p>○</p> <p>外部研修ばかりでなく、内部の研修も積極的に開催し共に学んでいくことで職員間が互いに刺激になるような相乗効果を期待していきたい。</p> |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>地区福祉関係の行事に毎年ホームでも参加しており、職員間でも顔なじみになっている。いくつかの他の施設と共に福祉関係の行事に参加することにより、施設幹部職員同士の宴席の場でもお互いの理解を深めることができている。また、グループホーム協会の研修にもできるだけ参加しておりネットワークを作っている。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>勤務については、職員の希望に沿うように勤務希望表を提出してから勤務表を作成しており、継続勤務がないよう配慮している。又、親睦会を計画して勤務を離れての職員間の交流の場を設けている。</p> | |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>勤務に対する希望や職員の生活も把握し、意欲を持って働けるよう努めている。今年度は自主的に介護福祉士の受験をする職員もいて向上がみられる。</p> | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>相談・申込の段階から本人に会う機会を作り、生活歴や本人の思い・不安に思っていることを聴くようにしている。</p> | |
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>相談・申込の際に、本人のこれまでの生活や家族が今困っていることをよく聴くようにしている。ケアマネジャーからの情報や利用していたサービス等も把握し助言できることがあれば助言して初期の段階から信頼してもらえるよう努力している。</p> | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 置かれている状況、困っていることをよく受け止め、必要に応じケアマネジャー・包括支援センター・各サービス事業所とも連携をとりながら相談・支援している。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 申込みの段階からなるべく本人の状況を把握し、入所前に職員が本人にお会いするようにしている。また、できるだけ家族・本人にホームの見学をしていただき、他の利用者との会話の機会を作ったりホーム内の様子を知ってもらうことで不安が軽減できるようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 介護されている立場で利用者が引け目に感じない様に言葉がけや態度に愛情を持ち、尊敬を持って接している。様々な活動を通じて教えていただくことも多い。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族を利用者の心身の状況の変化について相談したり対応を協議する相談相手として、面会時には話し合いの場をもうけ関係作りに努めている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人と家族の関係は入所してからの方が見えてくることも多く、いろいろな事を相談していく過程の中で関係作りを支援している。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚の方や知人がよく面会にきている。利用者の友人が定期的に面会に来て居室でゆっくり談笑しており入所後も変わらず交流を続けているようすがある。外出の希望があれば支援している。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員は利用者間の関係を把握しトラブルを未然に防いだり、孤立させないよう声かけしている。入居間もない帰宅願望のある利用者に声をかける利用者もあり、利用者同士が支えあう関係が出来ている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入院や退院後も面会をしたり家族から現在の状況を聞いたりして、退所後も相談できる場として関係を大切にしている。他の施設に移られた方も家族と来訪されている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの暮らし方を把握し日常生活の中で本人の言ったことや思いをケース記録に記録し、職員で共有し出来るだけ沿えるよう支援している。趣味事ややりたいことはできる限りかなえて行きたい。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の情報ばかりでなくその後も家族や面会者に生活歴等を聞き、家族との関係も知るよう努力している。又、本人からの話に耳を傾けこれまでの暮らし方の本人の思いを知るようにしている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日々の観察や小さな気づきを大切に記録している。記録を基に申し送りをして職員で共通している。カンファレンスでも話題に出しそれぞれの職員の視点も大事にしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意見を聞き今できることの継続や、やってみたいことの希望を入れ介護計画を立てている。また、職員からみたできそうなことも提案している。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的な見直しや状況に変化あった時は、カンファレンスを経てプランの見直しをしている。新たな要望や状況の変化がみられない場合もできそうなことを提案している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のケース記録に生活の記録をしている。職員は常に情報の共有ができるように申し送りを行い状況の変化に即応したケアができるようにしている。状況に応じ介護計画を見直している。 | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 法人の医師に月1回の往診を受けている。他に主治医がある利用者でも健康の相談をしたり応急的に指示を受けることができ、緊急に受診をしなくても対応できる環境である。また、予防接種なども行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員と連携を図り、都合がつかない限り地域の行事には参加したり、遠くに住む家族のかわりとなって面会やはがきのやり取りをさせていただいている。又月1回の体操指導のボランティアも開所当時から続いており、利用者の精神的・身体的機能の向上が計られている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 福祉用具や介護用品の購入を検討する必要がある時や通院介助等、他のサービスの情報を紹介している。図書館から本やビデオの貸し出しを受けたり、定期的な床屋の訪問を受け散髪していただいている。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 現在は権利擁護を利用している又は必要としている利用者はいないが、運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員がいるので連携がとれやすい環境になっている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族が対応できない時は職員が通院や医師との連絡を行い、体調の変化などの様子を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|------|----------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | | |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | | |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | | |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|---|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 常に尊敬を持って接し、命令や指示的な言い方にならないよう言葉かけに配慮している。記録物は保管場所に配慮したり、利用者の目の前で記録することがないようにしている。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 利用者が希望を言いやすい状況や場所等にも配慮して自分できめやすいような雰囲気や環境を大事にしている。自分で決めることが難しい場合は、提案したり思いを汲み取り希望に沿えるように支援している。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事など基本的な生活の時間はあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。リビングで過ごしたり居室で過ごしたり畑の手入れをしたりと、それぞれ思い思いに過ごせることを大事にし支援している。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 定期的に出張して床屋さんが散髪してくれている。自分の行きつけの美容院を利用している利用者もいるので、美容院との関係作りをして支援している。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は常に職員と利用者は一緒にしている。季節に合わせた食材を活用したり、利用者の誕生日には好み物を聞いて提供している。又、利用者が自ら畑で収穫してきた食材はすぐに食卓に出すようにして喜んで食べていただいている。調理や準備・かたづけも職員と一緒にしている。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | ホーム内で提供するおやつのほか、家族等が差し入れたものを食べていただいている。希望があれば、個々の嗜好品を購入し食べていただいている。 | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表を活用し把握に努めている。トイレ誘導の声かけやタイミングを見極め、職員間で情報を共有しトイレ使用の支援をしている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望を聞きながら対応している。入浴拒否のある利用者には、声かけやタイミングを工夫したり、他者と一緒の入浴を拒む利用者には一人で入っていただいている。入浴順が同じにならないよう曜日によって順番を変えて入っていただいている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 個々のパターンでテレビをみたり、休んだりして過ごしてもらっている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 身体がなまならないようにと在宅と同じように掃除や洗濯をしたり、ホーム内での役割を自分の仕事ととらえ自ら活動している利用者もいる。利用者同士も家事や畑作りを一緒に行い、張り合いを持って生活している。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理はホームが行っているが、利用者によりおこづかい程度のお金を所持し自分で買い物時は支払している。本人の希望する者を一緒に買い物したりしている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 自宅や親せき宅に外出する時は連絡を取り合い外出支援している。散歩や買い物などできる限り外出の機会を作り日常的に外出している。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 事前に計画を立て全員で行動できるような活動を取り入れている。音楽会や芸能会には希望者を連れて出かけている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯を持っている利用者に使用方法を指導したり、家族に出す手紙と一緒に書いたりしている。希望があれば自宅等に電話をかけ話をしてもらっている。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | いつでも面会に来ていただき、茶菓を提供し居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。職員は明るく温かい態度で出迎えるよう心がけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | カンファレンスで研修会を開き、身体拘束をしないケアの理解を深め話し合いの場をもっている。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないケアについてカンファレンスで話し合いしている。玄関はなるべく開けておきチャイムを設置している。玄関前や敷地内は自由に出入りでき戸外で思い思いに過ごしている姿がある。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 行動パターンを把握し所在の確認は怠らない様につけている。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危険と思われるものは目に見えない・手に触れない場所にしまったり、預かったりしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | ヒヤリハットや事故報告書を作成しカンファレンス等で話し合い再発防止を話し合っている。全職員が共通した意識で対処できるよう努めている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|--|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 救命救急法の講習会を実施している。緊急時のマニュアルを作成し、緊急時の対応について勉強会を開催している。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の避難訓練を消防の協力を得て行っている。災害の備えのため備品を準備している。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 契約時や面会時に説明している。その都度近況を報告し起こり得るリスクについて説明し話合っている。 | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 日々状態に変化がないか観察に努め変化のあった場合は、バイタルチェックをし必要な対応をしている。状況によっては看護師やかかりつけ医に連絡している。バイタルチェック表を作成し状態の変化を見つけやすいよう工夫している。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋綴りや薬の情報ファイルを作成しておりどんな薬が処方されているかわかるようにしている。誤って服薬することがないように毎回ごとに袋分けし工夫をしている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 老化と共に脱水しやすいことを理解しており常に水分摂取を心がけている。食事でも野菜を多用し気をつけている。便秘しやすい利用者には服薬をしていただき排便管理をしている。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 食後声かけをして行っている。口腔内の状態に変化がないか確認を行い、自力でできない利用者には職員が洗浄を手伝っている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|------|----------------------------------|
| 77 | <p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | | |
| 78 | <p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> | | |
| 79 | <p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p> | | |
| <p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> | | | |
| <p>(1)居心地のよい環境づくり</p> | | | |
| 80 | <p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p> | | |
| 81 | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | | |
| 82 | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所後は1日も早く不安なく生活できるよう馴染みの家具や食器を持参している利用者もいる。職員と一緒に買い物し飾りつけをすることで自分らしい愛着ある居室作りをしている。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | なるべく窓を開け換気に努めている。温度調節を小まめに行い快適に過ごせるように気をつけている。トイレの汚染は速やかに掃除・消臭し不快な思いをさせないようにしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内はすべて段差がなく車イスやシルバーカーの使用がしやすい。廊下は安全に移動できるように手すりを設置し、歩行器の訓練もできるように広がっている。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | できないことや混乱していることを把握し、それぞれに合わせて声かけや一緒に行くことでできることが一つずつでも多くなるように支援している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 敷地内には畑があり野菜を育てている。自主的に草取りや収穫などを毎日行い自由に出入りしている。洗濯物干しや取り込みも積極的に行き外に出て活動する機会が多い。また、そのような活動ができない利用者でも玄関や庭にベンチを設置しており通りをながめたり日向ぼっこを楽しむ姿がある。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療連携において母体であるクリニックの往診を受けながら、健康に留意し全員での外出が入居者・職員とも楽しく行われている。又、住宅地にあるグループホーム